

那覇市議会 覇会員

中村圭介の活動報告

「はじめよう、市民の手によるまちづくり」をキャッチフレーズに掲げ、当選後も「協働によるまちづくり」や「市民参画※¹」を議会ですべて継続してきました。足りないものが地域や所属によっても違う時代に、多様化するニーズに応える行政を行うためには市民の協力が不可欠です。行政だけで那覇の課題を引き受けるには、お金はもちろん技術や人々のネットワークといった資源が足りないため、協力して課題の解決にあたる「協働」や協働をさらに進め多様な主体で解決にあたる「総働」を推進するべきだと考えます。



生年月日 1984年9月2日
城西小学校 / 首里中学校 / 首里高校卒業
(2003年)58期生 / 琉球大学法学部
人間科学科卒業 / 県内印刷会社に営業として勤務 / 2013年那覇市議会議員当選
家族：妻（優華）
委員会等 厚生経済常任委員会 ※2、※3
議会改革 広報参画部会（部会長補佐）※4
議会だより編集委員会（副委員長）



▲クラゲサロンのひとこま



▲ねこのはなしのひとこま ワークショップのようす（右）

クラゲサロン（継続中）
那覇市壺屋にあるカフェプラヌで、これまでに30回開催。議会や市政の話を共有して質問も気軽にできる「議会との距離を近づける入り口」を目指しています。

ねこのはなし（継続中）
那覇市松尾にあるカフェJelly（ランプ）で、7回開催。猫の殺処分ゼロを目指す取り組みについてご紹介し意見交換をしたり、猫が喜ぶものを作るワークショップなどを通じて、猫と人間との共生について考えます。

チェロデサロン（継続中）
那覇市泉崎にあるカフェcello（チェロ）で、これまでに21回開催。カフェの常連さんで机を囲み、サークルのような雰囲気での話や政治の話をしています。

**よくわからなくなく
なくない県議選挙**

那覇市安里のG-shelterで開催。選挙ウォッチャーの宮原ジェフリーさんに選挙の楽しみ方をレクチャーしていただき、選挙との向き合い方について考える機会を提供しました。

（裏表紙へ続く）



▲チェロデサロンのひとこま



▲県議選イベントのひとこま



▲イベントのチラシ

注釈

- ※1 ■市民参画 市が行う行政に計画段階をはじめ様々な場面で市民が関わられるようにすること。情報の共有と合意形成を図り住民の意見を反映しやすくする。
- ※2 ■常任委員会 議会に諮られる議案や陳情、請願などの審議や行政事務の調査をする常設の委員会。那覇市では「総務常任委員会」「建設常任委員会」「教育福祉常任委員会」「厚生経済常任委員会」「予算決算常任委員会」がある。
- ※3 ■厚生経済常任委員会 那覇市議会の5つの常任委員会のひとつで市民文化部、経済観光部や環境部、健康部を所管する。
- ※4 ■広報参画部会 議会報告会をはじめとした議会の広報・広聴に関する改革を進めるための部会。

議会質問

「那覇市議会だより」から抜粋

観光バスの乗降場整備について



■中村圭介
(無所属の会)

一、観光振興における観光バスの重要性およびインフラ整備に行政がどの程度関わるべきなのか当局の見解を伺う。
二、国際通り周辺での観光バスはどのように議論されてきたのか伺う。
三、てんぶす那覇横の牧志壺屋線での観光バス乗降場整備の可能性、またその際は地域への説明はどのように行うのか伺う。
□関係部長

一、モノレール以外の鉄軌道を持たない本県では大変重要な輸送機能であると認識している。インフラ整備は県や本市、観光関連業者等と連携し取り組むもので本市の役割も重要だと認識している。
二、観光バスの待機で一般車両の通行に支障をきたしており関係者で協議を進めている。
三、通り会からも要望があったことから警察や関係する所管と調整を進めたい。地域関係者へ説明会を行うなど理解を求めよう努めたい。

第 202 号 平成 25 年 9 月定例会 一般質問

無所属の会

中村 圭介



人と人とのつながりをつくり地域の意見を形に

本市「協働のまちづくり」は漠然としており、境界が曖昧なので以下確認する。

- ①行政主導事業と市民との協働による事業の境界
- ②パブリックコメントを募集する事業選択監督者
- ③公共施設建設等の際、地域に何が必要か誰と共にその施設を育てていくのかを考え、実行するために、計画の段階から市民意見を取り入れるべき
- ④市長の今後の意気込み

■市長・関係部長

①境界は明文化していないが、平成十八年にまと

めた「市民と行政との協働の考え方」において事例を掲げ参考としている。

- ②那覇市民意見提出に関する要綱に基づき各事業の所管部局が行っている。
- ③市長就任から市民との協働によるまちづくりの推進を最重要施策の一つに掲げ、特に力を入れて取り組んできた。強く自負している。市全体の視点と地域の視点が一致しない場合は対話の場を数多く設定し、広く市民意見に耳を傾け事業を進めてきた。特に重要な施設は、選挙公約に掲げ市民に信を問うということも行っている。
- ④民意がしっかりと通る上に、市長として責任を持ってまちづくりを着々と前に進めるよう、兼ね合いの接点の落差がとて小さ



Do協働！それ行け営業部長の懇親会
(10月22日)

くなるよう努力する。

第 203 号 平成 25 年 12 月定例会 代表質問

※パブリックコメントとは…

行政の計画等を事前に公表し、市民から意見を求める制度。
那覇市では市民意見提出制度となっている。

地域の熱を高める協働のまちづくりのかたち



■中村圭介
(無所属の会)

- ① まちづくりコーディネーター制度の評価
- ② 市民協働大学の経過と今後の予定。

□関係部長

① 地域活性化、課題解決のため、モデル地区にNPOを配置し、自治会や関係機関などと連携して、専門的なノウハウを生かした取り組みができた。継続的な取り組みのため

には地域の主体性を育むことが重要であり、信頼関係の構築、財政的な負担も課題である。

② 平成二十二年度より開始し、受講生同士が話し合い、つながりをつくり、まちづくりの担い手になることを目的に、グループワーク形式で実施。卒業後、まちづくりの担い手として活動している方もいる。今後は、より実践の場で活用できるように講座プログラムを検討し開催したい。

第 203 号 平成 25 年 12 月定例会 一般質問

既存の環境を再検討し中心市街地の活性化を



■中村圭介
(無所属の会)

一、中心市街地の活性化のために国際通りトランジットマイルを活用して、奥武山公園で行われる大型のイベント「産業まつ

り」や「花と食のフェスティバル」などに関連した事業を行ってはどうか。
二、公設市場雑貨部と衣料部の空き小間が目立ち募集に対する応募状況もあまり芳しくないようである。応募要件を柔軟に変え、民間企業に開放す

るなどして空き小間の活用を図れないか伺う。

□関係部長

一、中心市街地の活性化に資する内容であり、イベント主催者からの企画提案等を含めて調整可能であれば、トランジットマイルを主宰する国際通り商店街振興組合連合会等、関係機関と私どもも

マチグワールの雰囲気を活かし地域を元気に



■中村圭介
(無所属の会)

一、公設市場雑貨部に喫煙所を設けてはどうか。

当該場所は、昨年十二月にオストメイト対応のトイレや観光案内所、授乳室を含む施設が新設された。喫煙所を設けることにより、待ち合わせに最適な場所となると考える。見解を伺う。

二、公設市場衣料部二階に設置されているひやみかちマチグワー館は、外から見てわかりづらい場

所にある。趣旨が伝わる外観は人々に信用を与え、期待を膨らませる。屋外広告等外観の整備計画について見解を伺う。

□関係部長

一、議員提案の視点は大事などところだと考える。要望も出ており、しっかりと意見聴取をしながらやっていきたい。

二、来場者等のアンケートからも場所がわかりづらいとの意見があった。商店街組合や通り会等関係者と意見交換しながら、わかりやすい案内の表示方法について工夫したい。

第 205 号 平成 26 年
6 月定例会 一般質問

※トランジットマイルとは…
那覇市が国際通りで実施するトランジットモール（自家用車を規制して公共交通機関が通行できる車歩共存道路）事業の愛称。国際通りを表す「奇跡の1マイル」と「トランジットモール」をかけている。

第 204 号 平成 26 年 2 月定例会 一般質問

市民の声をさらに聴き、活かせる那覇へ

無所属の会

中村 圭介



の直近三年の運用状況について。

②パブリックコメントの「年間予定」の公開を行うかどうか。

③パブリックコメントの対象となる事業の基準に「大規模な市の公共施設の整備に係る基本的な計画の策定又は重要な改訂」などを明文化してはどうか。

□市長・関係部長

一、戦前の街並みを彷彿とさせる建物は戦火によってほとんど姿を消し、戦後復興期の建物も老朽化が進んでいるほか、海砂使用によって劣化が進

んでいる。復帰前後に建てられた建物については歴史的経緯から文化的価値が評価される声も伺っているが、密集市街地における防災機能の確保などの課題を考えると、中核市として新しい都市の姿を模索していくことが重要だと考える。特に耐震等への対応は避けられないため、建物の保存活用は総合的な見地から判断されるべき。

二、市民意見を幅広く聴取することは肝要であるため、具体的基準の明文化や「年間予定」の提示については先行自治体の事例を参考にしながら拡充に努めていきたい。



かつて那覇琉米文化会館だった那覇市中央公民館・図書館

二、①関係資料

市民意見提出制度(パブリックコメント)運用状況			
年度	募集件数	応募意見総数	応募ゼロの件数
23	7	30	2
24	14	116	9
25	15	110	5

第 205 号 平成 26 年
6 月定例会 代表質問

なは市民活動支援センター利用者の範囲は



■中村圭介
(無所属の会)

今回提出のなは市民協働プラザ条例第十三条中

で「市民による自主的で営利を目的としない、協働によるまちづくりのための社会貢献活動」を市民活動とし、利用者の範囲を「市民活動を行う団体及び個人」としている。それは、現那覇市NPO活動支援センター条例で利用者の範囲である民間非営利団体(自主的で営利を目的としない社会貢献活動を行う民間の団体)、指定管理者が適当と認める団体及び個人、と

比較した際、「協働によるまちづくりのため」の文言が追加された分だけ利用者に制限が加わることにならないか見解を問う。

□関係部長

なは市民活動支援センターを協働によるまちづくりの拠点施設として、市民、団体、企業等多様な主体へ広く活用を促したいと思い、協働によるまちづくりに対する意識の高揚を図る趣旨で「市民による自主的で営利を目的としない協働によるまちづくりのための社会貢献活動を行うための施設」と明記したものであり、利用者の範囲を狭めるものではないと考える。

第 206 号 平成 26 年 9 月定例会 一般質問

協働によるまちづくりを今後も推進

無所属の会

中村 圭介



情報の公開と行政への住民参画の保障の重要性について見解を問う。

□副市長

自治基本条例は市長の二期目の公約に表され、条例制定に向けた取り組みを進めてきたが、策定に向けた機運が十分でな

いということでは延期し、今日に至っている。

本市は市民参加としての協働の取り組みを進めていくことが重要であるとの市長の考えをもとに、市民参画の仕組みづくりを確実に広げてきた。今年度末までに協働による那覇のまちづくり指針を策定できるように作業を進めている。情報の公開と行政

への住民参加の保障は、住民自治と行政の透明性を確保する上でも重要であり、推進すべきと考える。



那覇地区公民館 連絡協議会
円卓会議（協働によるまちづくり）

第 206 号 平成 26 年 9 月定例会 代表質問

協働によるまちづくりの今後の方向性について
無所属の会

中村 圭介



一、市長の「協働のまちづくり」に対する考え方と、その継承発展に向けた取り組みについて伺う。
二、市長選挙公約中の「那覇市民協働大学院」とはどのような事業か。

□市長・関係部長
一、翁長前市長が取り組

んできた「協働によるま



「こども協働大使になろう！」の講座風景

重層的な支援で不登校支援の拡充を

中村 圭介
(無所属の会)



一、教育委員会で行われている不登校の児童生徒支援について伺う。
二、那覇市内の不登校児童生徒四百四十四人中、何人が教育相談課の支援につながっているか伺う。
三、不登校の児童生徒の半数近くに支援が届かない状況だが、他部署や外部との連携はどうなっているのか伺う。

□関係部長

一、遊び非行傾向の生徒には「きら星学級」、心理的・情緒的理由の生徒

には「あけもどろ学級」、臨床心理士などが行う「メンタルヘルスカウンセリング事業」、学習支援事業「学習支援室でいんばう」、児童生徒に寄り添い支援する教育相談支援事業を行っている。
二、小中学校合わせて二百二十五人の児童生徒が支援につながっている。
三、本市の課題である不登校児童生徒の支援のためには、他部署や外部機関（公的機関・地域の方々等）と連携することが大切なことだと考えている。現在も様々な形で連携し、児童生徒の社会的自立に向けた支援を行っている。

第 207 号 平成 26 年 12 月定例会 一般質問

ちづくり」を継続して推進し「風格ある県都・那覇市」を築いていきたいと考えている。
二、地域で協働によるまちづくりの核となる人材を育成する

ための協働大学に加え、さらに専門的に学べる機会を検討している。卒業生には市政に積極的に関わっていただけることを期待している。

第 207 号 平成 26 年
12 月定例会 代表質問

地域と学校との連携について



■ 中村圭介
(無所属の会)

一、人口の推移を見ていくと少子高齢社会への対応が急務であり、子どもたちが伝統文化や芸能に触れる機会をつくり文化への理解を深め、継承発展させるために、現在の様々な事業の対象拡大また、より地域に密着した事業にできないか問う。

二、学校との連携が期待されるシニアを中心としたNPOが増えているが、学校側は総合的な学習の時間の活用などで連携できているのか問う。

□ 関係部長

一、保育所児童への伝統文化継承種まき事業、中学校の運動会などで各地域の青年会などに指導してもらうことが多くある。また、中学校総合文化祭や旗頭フェスタなどでも多くの協力をしてもらっている。教育委員会としては今後も地域の伝統文化が継承できるように各学校や地域と連携した活動を推進していきたい。

二、学校の実態に合わせて総合的な学習の時間の指導計画を立てており、ほとんどの学校が地域の特色を教材化し取り組んでいる。今後も学校と地域の連携を図れるよう推進していきたい。

第 208 号 平成 27 年 2 月定例会 一般質問

協働によるまちづくりの考え方について

無所属の会

中村 圭介



協働の仕組みに完成はなく時代に合わせて変えていくことを前提とすべきだと考えるが、①施

政方針中の協働の仕組みの完成はどのような状態を想定しているのか問う。②協働の現状をどう考えているのか問う。

□ 市長

①「完成」という言葉がなじまないという指摘は納得するが、方向性を指して



平成27年開設するなは市民協働プラザ

いると捉えてほしい。

②協働によるまちづくりの現状は点から線へそして面へと連携の輪が広がりにつつある。今後はそれらを紡ぎ合わせ揺るぎないものへと発展させたい。

第 208 号 平成 27 年
2 月定例会 代表質問

久茂地地域のまちづくりについて

無所属の会

中村 圭介



一、久茂地地域からコミュニティの拠点となる施設が立て続けに失われてきたが、当地域のコミュニティの将来像について市長はどのように考えるか。

二、今年度行われている新文化芸術発信拠点施設（新市民会館）周辺環境整備計画策定業務の中で複数回の市民ワークショップを経て市民と一緒に策定する「まちづくり方針素案」はどのように活用されるのか。

□市長・関係部長

一、久茂地地域は旗頭盛鶴保存会の活動や、久茂地川こいのぼり祭りなど、地域のつながりが強いコミュニティであると認識

している。このような活動を継続していけるよう、地域コミュニティの活動拠点について庁内関係部局において協議を重ね、前向きに検討しているところである。また、平成三十三年度の開館を目指し、新市民会館の建設に向けて取組を進めている。久茂地地域は商業地としての賑わいに加え、「ひと・つながり・まち」としてそこに住む人たちのいぶきを感じられる地域であり続けられるよう、支援をしていきたいと考えている。

二、今後全庁的な体制で取り組む新市民会館建設予定地周辺の課題を解決する計画を策定する予定である。その環境整備に向けた各分野の計画を策定するなかに地域の皆様とともに作成する「まちづくり方針素案」を反映させて活用する予定である。

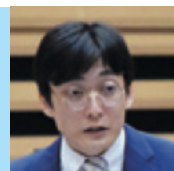


久茂地小学校跡地

第 209 号 平成 27 年
6 月定例会 代表質問

市民との関係性を育てる広報を

中村 圭介
（無所属の会）



一、ソーシャルメディアを活用した広報の拡充について、協働の観点からも活用の幅を広げていくべきと考えるが本市の見解を問う。

二、今年度から始まった不登校支援のきら星第二学級の現状と課題について問う。

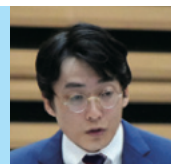
□関係部長

一、本市のソーシャルメディアは広報誌、ホームページ業務と兼任しながら運用している。各課からの情報提供及びホームページの更新情報が主となっている。ホームページの情報を柱にソーシャルメディアで拡散することが理想と考えており、ホームページの定期的な更新の強化が課題と

なっている。その上でソーシャルメディアの充実を図りたい。協働の観点からは那覇市の発信と協働大使の皆様との活動の発信をどう一緒にできるか広報と共に考えていきたい。二、保護管理課との連携も取りながら、きら星第一、第二学級共にフル稼働で支援にあたっては、まだ支援の拡充が必要であり、対応していきたい。

第 209 号 平成 27 年
6 月定例会 一般質問

市民との対話を大事にするまちづくりを



■ 中村圭介
(無所属の会)

1 地域との真摯な対話が望まれる新市民会館について、建設予定地の久茂地小学校跡地周辺を対象に3回行われたまちづくりワークショップの参加人数と、その他に実施した地域の声を聴く取り組みを問う。

2 第一牧志公設市場の再整備について、市民に開かれた議論をすべきであると考えているが当局の見解を問う。

□ 関係部長
1 まちづくりワークショップ

ヨップへの参加はそれぞれ9人、14人、11人であった。その他に地域住民の声を聴くための取り組みとして予定地周辺約1700世帯と地域所在の約800の事業所等を対象にしたアンケート調査、通り会や商店街など関係者へのヒアリング調査などを実施した。またワークショップ便りを配布し、併せて意見の募集を行っている。

2 市場事業者や周辺商店街事業者の皆様にも、外部検討委員会における議論も含めてご説明し、ご意見を伺いながらオープンに議論を進めていく。

第210号 平成27年9月定例会 一般質問

協働によるまちづくりの変化について

無所属の会

中村 圭介



1 市長はこの1年で那覇の協働によるまちづくりはどのような変化があったと考えるか、成果と課題について問う。

2 第5次総合計画策定に向け本市のホームページの計画一覧の充実を図るべきだと考えるが当局の見解を問う。

□ 市長・関係部長

1 この1年の主な事業としては「なは市民協働大学院」の開設「福祉避難所の確保に関する協定締結」「慢性腎臓病（CKD）病診連携事業の推

進」などが挙げられる。

また「性の多様性を尊重する都市・なは」宣言を行った。そして、協働の新たな拠点として「なは市民協働プラザ」を開設した。今後、少子高齢化社会を迎える現状を踏まえ、地域でのつながりをさらに強化していくことが課題であり、そのためにも地域で活躍できる人材の発掘や育成に鋭意取り組みんでいきたい。

2 本市の基本計画・指針及び総合計画の進捗状況については那覇市ホームページ等により情報公開をしているが、一元化されておらず検索が煩雑になっている。今後は容易に閲覧検索できるような改善と充実を図りたい。



なは市民協働プラザ

第211号 平成27年12月定例会 代表質問

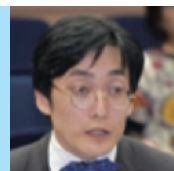
※なは市民協働プラザとは…

那覇市銘苅2丁目3番地（旧銘苅庁舎）

なは女性センター・銘苅証明発行センター・

なは市民活動支援センター・なは産業支援センターが入居するビル。

SIB(ソーシャルインパクトボンド)の検討を



■ 中村圭介
(無所属の会)

1 那覇でソーシャルインパクトボンドを活用した場合の利点と懸念事項について見解を問う。
2 なは市民協働プラザの今後の方向性を問う。
3 発達障がい者支援の取組の中でティーチャーストレーニングへの学校側からの支援状況を問う。

□ 関係部長

1 この制度については国や先進自治体の動向を注視し、調査研究等々も

含めて考えていきたい。

2 協働によるまちづくりの裾野を広げ、将来的には各種課題の解決に向けて中心的な施設となるよう期待している。

3 同事業を受講した教員などは、平成26年度は小学校のみで6人だった。教育委員会としては、

校長連絡協議会や特別支援教育コーディネーター連絡会などを通して同事業を周知し、受講の促進を図っている。今後も発達障がいをもつ児童生徒への効果的な特別支援教育の充実に努めたい。

第211号 平成27年12月定例会号 一般質問

※(SIB) ソーシャル
インパクトボンドとは…

社会的課題の解決と行政コストの削減を同時に目指す手法で、民間資金で優れた社会事業を実施し、事前に合意した成果が達成された場合、行政が投資家へ成功報酬を支払います。事業により将来的な財政負担を減らせる課題について活用が見込まれています。

貧困対策に適切な助言ができる組織を



■ 中村圭介
(無所属の会)

子どもの貧困に対しては教育や福祉だけでなく弁護士や企業等からも意見を聴き、事業の検証、改善と適切な助言ができる仕組みが必要である。子どもの貧困対策協議会の目的、役割と頻度、構成委員を問う。

□ 関係部長

設置を予定している子どもの貧困対策協議会の詳細については今後詰めていく必要があるが、同協議会は庁内関係部局のほか、外部の関

係機関と協働して対策に取り組むことを目的に設置する予定である。協議会の役割は、子どもの貧困対策支援員配置事業に基づき配置する支援員と、関係機関の士の情報共有を図ることを防ぎ、安心して子どもたちを支援できる体制を構築することなどを想定している。

協議会の委員は学校関係者、NPO等実施機関、学識経験者等を予定している。開催は必要に応じて開催するが、特に専門的な助言をもらう予算として年5回分を計上している。

第212号 平成28年2月定例会 一般質問

福祉協力員の増員を



■中村圭介
(無所属の会)

1 市がサポートし、福祉協力員への勧誘を促進してどうか問う。
2 施設使用目的に照らし独自のホームページを持つべき施設については、業務として取り組むべきだと考えるが、当局の見解を問う。

□関係部長

1 福祉協力員は民生委員児童委員のよき協力者となっており、福祉協力員がきっかけで民生委員児童委員になる事例もあることから、福祉協力員が増えるこ

とで、現在欠員状況にある民生委員児童委員のなり手発掘につながることも期待される。

本市としても、民生委員児童委員連合会、また、16力所の民生委員児童委員協議会と協力して、民生委員児童委員の欠員解消とあわせて、福祉協力員の募集に努めたい。

2 広報を所管する秘書広報課において、今後施設を所管する担当課に呼びかけ、インターネットによる広報について意見交換などを行い、施設目的を踏まえた効果的な広報について検討したい。

第 213 号 平成 28 年 6 月定例会 一般質問

第一牧志公設市場再整備に向けた合意形成を



■中村圭介
(無所属の会)

1 第一牧志公設市場の再整備に向けて、徹底した市民協働が求められている。市場の現在地建て替えによる再整備に向けた仮市場についての協議をどのように行うのか問う。

2 ニーズが高まる子育て支援室の家庭相談員の現在の業務内容と担当するケース件数、課題について問う。

□関係部長

1 市場の再整備に向けては市場事業者との情報共有や意見交換は重要であることから、精肉や生鮮など各部門別に説明会を開催し、さらに個別店舗にヒアリングを実施しているところである。

このヒアリング等から

仮設店舗入居意向等を集約し、今後市場事業者の皆様と協議を進めたい。

また、にぎわい広場での仮設市場の整備についても今年度策定する基本計画の中で議論していく。

2 現在7名の家庭相談員が在籍し、全員非常勤の職員である。家庭相談員一人平均約40世帯、約70名を担当している。

業務内容は、電話や来所による相談受付、家庭訪問、個別ケース検討会議の補助のほか泣き声通報への緊急対応がある。

課題としては、普段から接触している担当ケース以外にも新規の相談が多いこと。また、緊急性が高いケースが出た場合にはそちらを優先して対応するという状況にある。

第 214 号 平成 28 年 9 月定例会 一般質問

無所属の会

中村 圭介



協働によるまちづくりを進めるために、第5次総合計画の策定はとても重要な機会である。多様な市民が策定に関わる機会を増やすべきである。以下問う。

①第5次総合計画の策定における市民参画の意義について問う。

②なは市民協働大学院の定員と応募人数を問う。

③課題抽出のために早い段階で意見を募集してはどうか問う。

④第5次総合計画が本市の課題解決の推進力

となるために、専門性の高い団体などから課題別に提言を受ける機会を設けるべきである。当局の見解を問う。

⑤地域別に説明会を開催すべきと考える。当局の見解を問う。

□市長・関係部長

①今後のまちづくりの道しるべとなる第5次那覇市総合計画の策定には、市民の皆様の積極的な参画が不可欠であると認識している。

②今年度の、なは市民協働大学院は、36人の定員に対し30人の応募があった。

③課題抽出の方法については、従来の市民アンケートに加え、幼稚園、小学校児童の保護者及び中学生から大学生までの学生を含めた、延べ5千人を対象としたアンケートを実施する。

また学生による、ワークショップを開催する。

④専門性の高い団体からの提言については、各分野でまちづくりに取り組む企業や団体などへアンケート及びインタビューを実施する。

⑤来年2月には、なは市民協働大学院で取りまとめた内容を広く市民に対して発表し、さらに議論を深めていく。

多層的な市民の参画を得て、総合計画を策定していく。



なは市民協働大学院の受講風景

地域円卓会議

「1000人を収容する市民会館が久茂地小学校跡地にできたとき、この地域はどうなるのか？」をテーマに那覇市久茂地小学校跡のまちづくりを考える地域円卓会議をみらいファンドおきなわ※1に依頼して開催。市民と行政の対話がままならないまま事業が進んでしまうのを避けるため、地域住民、行政、研究者、商店街関係者等それぞれの立場から意見を述べていただき会場にきた市民とも意見交換をしました。



▲地域円卓会議のひとつま

ラジオ番組

「中村圭介対話の時間」

FM那覇(78.0MHz)にて毎週金曜日朝8時放送中。議会報告の他、那覇の課題について理解を深めるためにゲストをお招きしてお話を聴く番組をしています。

もつと政治を身近に

様々な中学校での「お仕事せんせい」※2や小緑中学校での課題解決型学習※3(PBL授業)に参加したり、子どもの居場所kukulu(くくる)※4で議員という仕事について、政治についてお話ししました。若者と議会、政治との距離を近づける機会になるように今後もいろいろな機会を探して飛び込んでいきます。

政治関係のイベントだけでなく映画の上映会などにも呼んでいただき、行政と市民との関係やまちづくりのお話しなどをしました。映画「ふるさとがえり」「ダムネーション」「100年ごはん」トークライブ出演。就活イベント「就職しないで生きるには」「ジュンク堂ねこの日イベント」出演、等。



▶小緑中学校 PBLのひとつま



◀就活イベントのひとつま



▲映画「ふるさとがえり」上映会のひとつま

注釈

- ※1 ■みらいファンド沖縄 市民社会を支える地域資源の循環を目指す財団法人。地域の困りごとを解決するために基金を作り企業や個人から寄付を届けている沖縄の地域ファンド。
- ※2 ■お仕事せんせい 地域のこどもたちがますます社会に夢と希望を持ち、学ぶ意欲を高めることができるよう、社会人の実体験を話すプログラム。
- ※3 ■課題解決型学習 PBL (project-based-learning) は、自ら設定した課題や提出された課題に対して解決策を出す過程で能力の育成を図る学習。
- ※4 ■子どもの居場所 kukulu NPO 法人沖縄青少年自立援助センターちゅらゆいが運営する施設。家庭の問題、心や身体の問題など様々な要因で学校に行きにくくなってしまったこどもに対して、安心して過ごせる居場所を提供し、学習支援や社会体験活動などを通して復学や進学、就職という出口へと送りだすことを目的としている。

新しい動きと今後の展望

事務所を首里駅前の那覇市首里汀良町3丁目37番地1に移転しました。

今後は、カフェでのサロンに加え事務所での議会報告のサロンを開催予定です。また、いくつかのテーマを抽出して政策研究会を立ち上げ、政策提言につなげていきます。地域に開かれた事務所を目指して、市政情報が閲覧できるコーナーも開設予定です。どうぞお気軽にお越しください。

身近で開かれた議会を目指し行政情報をもっと市民と共有し市民の手によるまちづくりを進展させていきます！



インフォメーション
ホームページ
nakamurakeisuke.com

ブログ
「中村圭介のいたいしやべる日記」
で検索

t
twitterで「kei_naha」で検索

f
Facebookにもいます！

ラジオ「中村圭介対話の時間」
毎週金曜日朝8時放送

スマホアプリダウンロードお願いします！



▲android



▲iOS(iPhone)